



2022年3月25日

各位

会社名 三菱食品株式会社
代表者名 代表取締役社長 京谷 裕
(コード:7451、東証第一部)
問合せ先 広報・ブランディンググループマネージャー 平野 三千男
(TEL. 03-4553-5622)





2030年目標の見直し及びサステナビリティ重点課題に関するお知らせ

当社は、このたび、2021年5月に公表した「中期経営計画2023」で掲げた当社パーパス（「食のビジネスを通じて持続可能な社会の実現に貢献する」）に基づき、三菱食品グループの「サステナビリティ重点課題と2030年目標」の見直しをいたしました。

カーボンニュートラルの実現と社会課題の解決に向け、地球環境保全推進の具体的取り組みを通じてサステナビリティ経営を実践してまいります。

記

1. サステナビリティ重点課題と2030年目標

重点課題	2030年目標
<p style="text-align: center;">環境</p> 	<p>2050年カーボンニュートラルの実現に向け、CO2排出量（※）を2016年度対比60%削減します。</p> <p>食品廃棄量を2016年度対比50%削減します。</p> <p>プラスチック資源循環を推進し、環境に配慮した製品を活用します。</p>
<p style="text-align: center;">地域・暮らし</p> 	<p>強靱で持続可能なサプライチェーンを構築します。</p> <p>地域課題の解決と地域貢献に資する商品・サービスの創出／拡充を行います。</p>
<p style="text-align: center;">健康</p> 	<p>健康課題の解決と健康に資する商品・サービスの創出／拡充を行います。</p>
<p style="text-align: center;">価値創造の基盤</p> 	<p>個性を尊重し、能力、適性を活かし健康的に活躍できる組織風土の醸成とエンゲージメントの向上を実現します。</p>

パートナーシップ&イノベーション

※Scope 1（事業者自らによる温室効果ガスの直接排出）及びScope 2（他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出）による排出量

2. 背景

近年、世界各地で地球温暖化の影響とみられる異常気象や大規模な自然災害による被害が甚大化するなど、気候変動は企業の事業環境や経営そのものに大きな影響を及ぼしており、世界共通の課題となっています。当社は2020年5月に、4つの重点課題とこれら全てに関連する価値創造基盤に係る2030年目標を定めましたが、直近の社会環境の大きな変化や当社のパーパス、「中期経営計画2023」の内容を踏まえ、重点課題を改めて整理し直すとともに、2030年目標についてもより具体的かつ当社事業に即した内容へと進化させました。1月に公表したサステナビリティ方針や、再生可能エネルギーを活用した環境配慮型電力契約への切り替え、環境配慮型車両の導入もその一例であり、今後も様々な取り組みを通じて脱炭素社会の構築に貢献してまいります。

三菱食品グループのサステナビリティ

<https://www.mitsubishi-shokuhin.com/csr/index.html>

以 上